

中国における夫婦関係が子どもの問題行動に与える影響 — 養育態度を媒介したモデルの検討 —

楊 依梵¹・清水 寿代²

The Influence of Marital Relationships on Children's Problem Behaviors in China: The Mediating Role of Parenting Style

Yifan YANG¹, Hisayo SHIMIZU²

Abstract: The purpose of this study was to examine the influence of marital relationship and parenting style on children's problem and prosocial behaviors in China. A total of 165 mothers (mean age, 32.33) with children aged 3-6 years (mean, 4.56) completed an online questionnaire to assess their marital relationship and children's problem behaviors. The mothers' responses measured their marital relationship, parenting style, and children's problem and prosocial behaviors. Structural equation modeling showed that the marital relationship mediates parenting style and influences children's problem and prosocial behaviors. In addition, a mediation analysis was conducted based on the results of the structural equation modeling. Marital conflict was found to influence children's problem behaviors through the mediation of authoritarian and permissive parenting styles. Marital support was found to influence children's problem behaviors through the mediation of authoritative parenting style. Both marital conflict and marital support were found to influence children's problem and prosocial behaviors through the mediation of parenting styles. In sum, these results suggest that the marital relationship not only influences children's problem and prosocial behaviors, it also influences children's problem behaviors through the mediation of parenting style.

Keywords: marital relationship, parenting style, problem behavior

問題と目的

社会の発展に伴い、近年、子どものメンタルヘルスはますます関心を集めている。就学前期のメンタルヘルスは、人格、自己認識、感情、向社会的な行動の発達に深く関わっている。問題行動は、就学前の子どもに最もよく見られるメンタルヘルスの問題のひとつであり、日常生活と将来の精神的健康の両方に影響を与え、社会的な規模の問題に発展する可能性がある。

Achenbach et al. (1987)によると、問題行動は攻撃的行動や非行的行動などの外在化問題行

動と抑うつ、不安、引きこもりなどの内在化問題行動の2つに構成されている。問題行動はすべての年齢で発生し、多くの場合は幼少期に始まる(Magai et al., 2018)、特に攻撃行動、規則違反、注意の問題のような外在化問題行動は児童期初期によく見られ、児童期中後期に低下する(Petersen et al., 2015)。問題行動が就学前期の子どもから青年期になっても持続する可能性があり、その後の人生においては、劣等感、社会的関係の構築、学業成績(Raver, 2002; Chen et al., 2005)と関連していることが示している。問題行動が出現した場合は、対応が適切であれば、問題行動が継続したり再発したりする可能性が小さくなるが、問題行動が無視されたり放置されたりしまうと、再発の可能性が高くなり、

1 広島大学大学院人間社会科学研究科
2 広島大学大学院人間社会科学研究科附属幼年教育研究施設

二次的、三次的な問題行動が発見する（内田, 2008）ことから、問題行動への早期的適切な対応が必要であると考えられる。

さて、子どもの初期の適応と問題行動に影響を与える可能性のある要因としては、これまでは夫婦関係と養育態度などについて検討されてきた。

夫婦関係と子どもの問題行動 就学前の子どもの活動の多くは親と一緒に行為されるものであるため、家庭は子どもの行動発達にかけがえのない役割を担っている。夫婦関係と子どもの適応に関する研究は、欧米を中心（e.g., Davies & Cummings, 1994）として行われてきた。夫婦間の敵意の高さや葛藤の激しさ、未解決を特徴とするような破壊的な夫婦間葛藤が子どもの発達へリスクをもたらす、様々な適応問題と関連することが明らかとなっている（Cummings et al., 2000；松浦 訳 2006；廣瀬・濱口, 2022）。近年、中国の夫婦の間では、前世代に比べて夫婦間の葛藤や崩壊が劇的に増加しており（Xiao et al., 2020）、これまでの研究も、主に夫婦間葛藤に焦点を当ててきた。例えば、夫婦間葛藤が子どもの内化問題行動（Xiao et al., 2022）、情緒的不安定（Li et al., 2016）と有意に関連する。一方、夫婦の満足度は、子どもの向社会的な行動や共感性（Zhang et al., 2022）、well-being（Shek, 2000）に影響を及ぼすことが明らかにされている。しかしながら、夫婦関係のポジティブな側面（例えば、夫婦間の愛情、夫婦関係の満足度、サポートなど）に対する検討は十分とは言えない。

夫婦関係と養育態度 家族システム理論では、家族単位を関係や行動の組織的な集合体として概念化し、ある家族サブシステムにおける相互作用が他の家族サブシステムに影響を及ぼす（Cox & Paley, 1997, 2003）とする。特に、夫婦関係は養育態度や親子相互作用に強い影響を及ぼすと予想される（Xiao et al., 2022）。例えば、中国の親が夫婦間葛藤から生じるネガティブな感情（敵意や攻撃性など）にますますのめり込み、その結果、子どもに対して厳しい統制、懲罰的戦略、過酷な扱いにつながる可能性がある（Chang et al., 2004）。従来の研究では、夫婦間葛藤を中心として検討してきたが、marital happiness または marital harmony といった marital health（夫婦関係の健康さ）に注目する必要がある（Fincham, 1998；菅原ら, 2002）。Kowk (2015) は中国の家族を対象に、夫婦関係の満足度と養

育の関連を検討した。その結果、夫婦関係の満足度が co-parenting に影響することが明らかになった。また、marital adjustment（夫婦間の子育てをめぐる葛藤）が低いほど指導的な養育態度を取る傾向が高くなり、権威主義的な養育態度をとる傾向が低くなる（Yu et al., 2008）。そこで、本研究では、夫婦関係の側面として中国ではほとんど検討されることがなかった夫婦間サポートに着目し、それが問題行動に影響を及ぼすプロセスを明らかにする。

親の養育態度と子どもの問題行動 これまでに行われた研究（Yu et al., 2020）から、親の養育が就学前の子どもの行動形成に重要な影響を与えることが明らかになっている。養育行動に関しては、本研究では、子育てに関する親の典型的な考え方、感じ方、行動様式である養育態度（Baumrind, 1971）に焦点を当てた。Baumrind (1971) は養育態度を分類した結果、養育態度を Authoritative（指導的）、Authoritarian（権威主義的）、Permissive（寛容的）の3つに分類した。中国における養育態度が子どもの問題行動に与える影響を検討した先行研究では、親のサポート、肯定的な感情の表現、明確で一貫した制限の設定などの指導的な養育態度は、より高い自己調整／自己制御（Huang et al., 2017）、向社会的行動（Hu & Feng, 2021）などのより肯定的・適応的な結果に関連していることが明らかになった。一方、権威主義的、強制的、懲罰的、否定的な親の表現や拒絶のような権威主義的な養育態度は学業成績の低下（Chen et al., 1997）、自己制御の低下（Liu et al., 2018）などの子どもの否定的なアウトカムに結びついている（Hosokawa & Katsura, 2018）。権威主義的な養育態度も寛容な養育態度も、子どもの心理社会的発達にとって有害である可能性がある。さらに、このような養育態度は、長期にわたって行動上の問題を含むさまざまな否定的な発達の結果と一貫して結びついている（Hosokawa & Katsura, 2018）。したがって、寛容な養育態度を含めて養育態度が子どもへの影響を検討が必要であると考えられる。

目的と仮説 本研究では、中国における就学前の3歳～6歳児を対象として、夫婦間葛藤と夫婦間サポートという夫婦関係の2つの側面を取り上げて、夫婦関係と養育態度がどのようなメカニズムで子どもの問題行動に影響を与えるかについて、モデル（Figure 1）の検証を行うことである。次に、夫婦間葛藤は、権威主義的あ

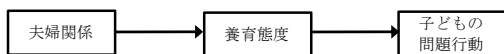


Figure 1 仮説モデル

るいは寛容的な養育態度を媒介して、子どもの問題行動に正の影響、向社会的な行動に負の影響を及ぼすと予想される（仮説1）。続いて、夫婦間サポートは、指導的な養育態度を媒介して、子どもの問題行動に負の影響、向社会的な行動に正の影響を及ぼすと予想される（仮説2）。

方法

調査対象 中国の調査ウェブサイト wjx (<https://www.wjx.cn>) で参加者を募集し、3歳から6歳の子どもの持つ母親200名を対象とした。回答に不備があったものを除外した165名（母親平均年齢32.33歳（SD = 4.02））；子ども平均年齢4.56歳（SD = 0.93）を対象に分析を行った。

調査時期 2022年03月に実施した。

質問紙の構成

基礎データ 子どもの人数、子どもの年齢と性別、母親の年齢について記入を求めた。また、3～6歳の子どものが二人以上いる場合を考慮し、子ども全員の年齢と性別を記入した上で、3～6歳の子どもの中の一人を思い浮かべて回答を求めた。

養育態度 中国語版の養育態度尺度（The parenting styles and dimensions questionnaire: PSDQ; Wu et al., 2002）は親の養育態度を測定する尺度であり、3の下位尺度で構成され、全62項目である。指導的な養育態度は27項目（項目

例：「私は、子どもに自分がとった行動の結果を話すように促すことで、自分の行動の影響を理解するのを手助ける」）、権威主義的な養育態度は20項目（項目例：「私は、子どもが言うことを聞かない時にはお尻を叩く」）、寛容的な養育態度は15項目（項目例：「私は、子どもが何か騒ぎ立てると、子どもの要求を受け入れてしまう」）である。各項目に対して、「1. まったくしない」から「5. いつもする」までの5件法で回答を求めた。下位尺度ごとに合計得点を算出し、分析で用いた。

問題行動 中国語版の子どもの強さと困難さアンケート（Strength and Difficulties Questionnaire: SDQ; Du et al., 2008）を使用した。5つの下位尺度で構成されており、情緒的問題（Emotional Symptoms）は5項目（項目例：「心配事が多く、いつも不安なようだ」）、行為の問題（Conduct Problems）は5項目（項目例：「素直で、だいたい大人のことをよくきく」）、多動/不注意（Hyperactivity / Inattention）は5項目（項目例：「いつもそわそわしたり、もじもじしている」）、仲間関係の問題（Peer Problems）は5項目（項目例：「仲の良い友だちが少なくとも一人はいる」）、向社会的な行動（Prosocial Behavior）は5項目（項目例：「他の子どもたちと、よく分け合う（おやつ・おもちゃ・鉛筆など）」）である。本研究では、問題行動を総合的に考察するため、Difficulties（困難さ）に関する4つの下位尺度（情緒の問題、行為の問題、多動/不注意、仲間関係の問題）の合計点を「総合的困難さ（TDS: total difficulties score）」として計算し、分析で使用した。下位尺度の逆転項目を処理した上で、「あてはまる」を0点、「ま

Table 1 各尺度の基礎統計量

	平均	標準偏差	最大値	最小値	α係数
母親の年齢	32.33	4.02	52.00	24.00	
子どもの人数	1.15	0.37	3.00	1.00	
子どもの年齢	0.93	4.56	6.00	3.00	
夫婦間葛藤	9.53	2.60	16.00	4.00	.79
夫婦間サポート	16.01	2.30	20.00	8.00	.75
指導的な養育態度	111.61	8.97	133.00	87.00	.87
権威主義的な養育態度	47.36	9.20	74.00	23.00	.88
寛容的な養育態度	35.68	4.65	46.00	25.00	.50
総合的困難さ	28.76	4.34	39.00	21.00	.74
向社会的な行動	12.71	1.69	15.00	9.00	.64

「あてはまる」を1点, 「あてはまる」を2点として得点化した。下位尺度の「向社会的な行動」の得点が高いほど子どもの適応が良く, 問題行動の得点が高いほど子どもの適応が悪いことを意味する。

夫婦関係 中国語版の Quality of Coparental Communication Scale (QCCS; Ahrons, 1981) を使用し, QCCS は父母のコミュニケーションの質を測定する尺度である。中国語版翻訳文採用は2名の翻訳文の意味内容が一致するものを選択した。そして, 中国語から日本語へ逆翻訳を行い, 日本語原文の意味を反映されるかどうかを確認した。原版の10項目から, 離婚後夫婦関係に対する2項目削除され8項目で構成されている。下位尺度は2つで, 葛藤は4項目(項目例: 「敵意や起こりのある雰囲気になることはどれくらいありますか?」), サポート4項目(項目

例: 「配偶者は, あなたにとって子育てをする上で助けになる存在と言えますか?」) である。

結果

分析は清水(2016)のHAD (Version.17_202)で行なった。

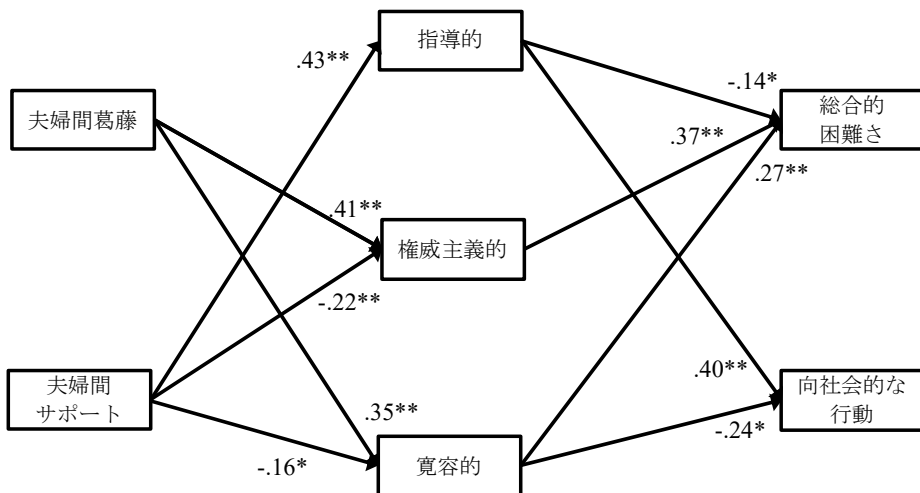
各尺度の記述統計量 先行研究にしたがい, 各下位尺度を設定し, 合計得点を算出し, 分析を行なった。各尺度の記述統計量を Table 1 に示す。

相関分析 夫婦関係, 養育態度と子どもの問題行動の関連を検討するために相関分析を行い, 結果を Table 2 に示す。夫婦関係のうち, 夫婦間葛藤と指導的な養育態度の間に弱い負の関連 ($r = -.25, p < .01$) が見られ, 権威主義的な養育態度と寛容的な養育態度の間に中程度の

Table 2 各尺度得点の相関係数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1. 母親年齢	1.00									
2. 子ども人数	.29**	1.00								
3. 子ども年齢	.26**	.03	1.00							
4. 夫婦間葛藤	.02	-.02	-.18*	1.00						
5. 夫婦間サポート	-.11	-.06	.06	-.37**	1.00					
6. 指導的な養育態度	-.14 ⁺	.01	.02	-.25**	.43**	1.00				
7. 権威主義的な養育態度	.09	.11	-.07	.51**	-.37**	-.35**	1.00			
8. 寛容的な養育態度	.07	.06	-.07	.42**	-.28**	-.33**	.59**	1.00		
9. 総合的困難さ	-.04	.00	-.07	.45**	-.32**	-.35**	.57**	.53**	1.00	
10. 向社会的な行動	-.16*	-.05	.10	-.12	.23**	.48**	-.38**	-.32**	-.31**	1.00

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$



※表示している係数は標準化係数 ** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

Figure 2 共分散分析の結果

正の関連 ($r = .51, p < .01$; $r = .42, p < .01$) が見られ、総合的困難さと中程度の正の関連 ($r = .45, p < .01$) が見られた。養育態度のうち、指導的な養育態度は総合的困難さと弱い負の関連 ($r = -.35, p < .01$) が見られ、向社会的行動の間に中程度の正の関連 ($r = .48, p < .01$) が見られた。

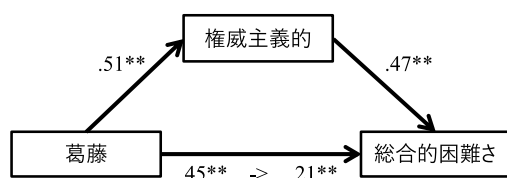
共分散構造分析 次に、夫婦関係が養育態度を媒介して子どもの問題行動に影響を及ぼすという仮説モデルについて、共分散構造分析 (Figure 2) を用いて検討した。このモデルの適合度は、 $\chi^2(7) = 3.095$ ($p = .08$), RMSEA = .07, CFI = .98と良好な値であった。夫婦間葛藤は権威主義的な養育態度と寛容的な養育態度に正の影響 ($\beta = .41, p < .01$; $\beta = .35, p < .01$) を与え、夫婦間サポートは指導的な養育態度に正の影響 ($\beta = .43, p < .01$)、権威主義的な養育態度と寛容的な養育態度に負の影響 ($\beta = -.22, p < .01$; $\beta = -.16, p < .05$) を与えることが示された。指導的な養育態度は子どもの問題行動に負の影響 ($\beta = -.14, p < .05$) を与え、向社会的な行動に正の影響 ($\beta = .40, p < .01$) を与えることが示された。権威主義的な養育態度は子どもの問題行動に正の影響 ($\beta = .37, p < .01$) を与えることが示された。寛容的な養育態度は子どもの問題行動に正の影響 ($\beta = .27, p < .01$) を与え、向社会的な行動に負の影響 ($\beta = -.24, p < .01$) を与えることが示された。

媒介分析 夫婦関係が養育態度を媒介して子どもの問題行動に影響を及ぼすのかを検討するために、共分散構造分析の結果より見られた有

意なパスと仮説に基づき、夫婦関係が独立変数、子どもの問題行動を目的変数、養育態度を媒介変数とした媒介分析を行なった。その結果、Figure 3, 4, 5と6に示す。

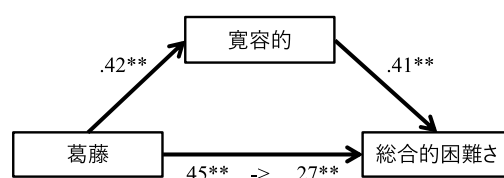
(1) 夫婦間葛藤が権威主義的な養育態度を媒介して子どもの問題行動に及ぼす影響について Figure 2より、夫婦間葛藤が子どもの問題行動に直接効果 ($\beta = .45, p < .01$) が見られたが、権威主義的な養育態度を媒介変数として投入した後に効果が減衰した ($\beta = .21, p < .01$)。夫婦間葛藤は権威主義的な養育態度に影響を与え ($\beta = .41, p < .01$)、権威主義的な養育態度を媒介して子どもの問題行動に影響を与える ($\beta = .21, p < .01$) ことがわかった。そして、bootstrap法による間接効果の有意性の検定 (サンプリング回数:2,000回, 信頼区間:95%) を行なった。その結果は有意 (標準化間接効果 = .24, CI [.27, .58]) であったため、権威主義的な養育態度の有意な部分媒介効果が認められた。

(2) 夫婦間葛藤が寛容的な養育態度を媒介して子どもの問題行動に及ぼす影響について Figure 3より、夫婦間葛藤が子どもの問題行動に直接効果 ($\beta = .45, p < .01$) が見られたが、寛容的な養育態度を媒介変数として投入した後に効果が減衰した ($\beta = .27, p < .01$)。夫婦間葛藤は寛容的な養育態度に影響を与え ($\beta = .42, p < .01$)、寛容的な養育態度を媒介して子どもの問題行動に影響を与える ($\beta = .41, p < .01$) ことがわかった。そして、bootstrap法による間接効果の有意性の検定 (サンプリング回数:2,000



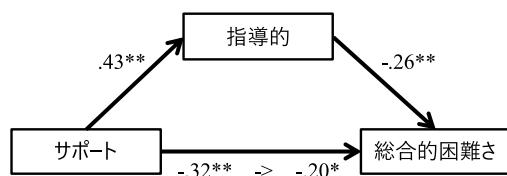
※表示している係数は標準化係数 ** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

Figure 3 夫婦間葛藤が権威主義的な養育態度を媒介して総合的困難さに及ぼす影響



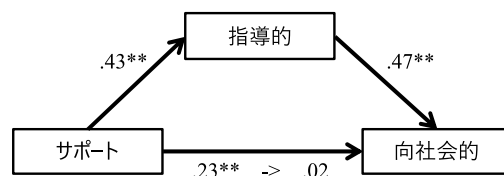
※表示している係数は標準化係数 ** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

Figure 4 夫婦間葛藤が寛容的な養育態度を媒介して総合的困難さに及ぼす影響



※表示している係数は標準化係数 ** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

Figure 5 夫婦間サポートが指導的な養育態度を媒介して総合的困難さに及ぼす影響



※表示している係数は標準化係数 ** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

Figure 6 夫婦間サポートが指導的な養育態度を媒介して向社会的な行動に及ぼす影響

回、信頼区間：95%)を行なった。その結果は有意(標準化間接効果 = .17, CI [.17, .44])であったため、寛容的な養育態度の有意な部分媒介効果が認められた。

(3) 夫婦間サポートが指導的な養育態度を媒介して子どもの問題行動に及ぼす影響について Figure 4より、夫婦間葛藤が子どもの問題行動に直接効果 ($\beta = -.32, p < .01$)が見られたが、指導的な養育態度を媒介変数として投入した後に効果が減衰した ($\beta = -.20, p < .01$)。夫婦間葛藤は指導的な養育態度に影響を与え ($\beta = .43, p < .01$)、指導的な養育態度を媒介して子どもの問題行動に影響を与える ($\beta = -.26, p < .01$)ことがわかった。そして、bootstrap法による間接効果の有意性の検定(サンプリング回数：2,000回、信頼区間：95%)を行なった。その結果は有意(標準化間接効果 = -.11, CI [-.41, -.08])であったため、指導的な養育態度の有意な部分媒介効果が認められた。

(4) 夫婦間サポートが指導的な養育態度を媒介して子どもの向社会的な行動に及ぼす影響について Figure 5より、夫婦間葛藤が子どもの向社会的な行動に直接効果 ($\beta = .23, p < .01$)が見られたが、指導的な養育態度を媒介変数として投入した後に効果がなくなった ($\beta = .02, n.s.$)。夫婦間葛藤は指導的な養育態度に影響を与え ($\beta = .43, p < .01$)、指導的な養育態度を媒介して子どもの向社会的な行動に影響を与える ($\beta = .47, p < .01$)ことがわかった。そして、bootstrap法による間接効果の有意性の検定(サンプリング回数：2,000回、信頼区間：95%)を行なった。その結果は有意(標準化間接効果 = .20, CI [.08, .24])であったため、指導的な養育態度の有意な媒介効果が認められた。

考 察

本研究では、夫婦関係が、養育態度を媒介して子どもの問題行動と向社会的な行動に与える影響について検討を行なった。Figure 2のモデルを総括すると、夫婦関係は指導的な養育態度、権威主義的な養育態度や寛容的な養育態度という養育態度を媒介して、子どもの問題行動と向社会的な行動と関連することが明らかとなり、仮説モデルが概ね検証されるといえよう。夫婦関係、養育態度と子どもの問題行動の関連について「夫婦関係→養育態度→問題行動」のプロセスに従って考察していく。

夫婦関係と養育態度の関連 夫婦間葛藤は、

権威主義的な養育態度と寛容的な養育態度に正の影響を与え、夫婦間サポートは、指導的な養育態度に正の影響を与え、権威主義的な養育態度と寛容的な養育態度に負の影響を与えていた。この結果は、流出仮説 (spill-over hypothesis; Erel & Burman, 1995) の考えと一致している。夫婦関係と養育行動に正の相関があり、夫婦関係がネガティブなら、養育行動・態度やそのほかの親子関係の指標もネガティブなものとなる(菅原ら, 2002)。夫婦間の敵意は、家族間(父親、母親、子ども)の温かみの減少、親子間の応答性の低下などに悪影響を及ぼす(Stroud et al., 2011)。本研究もこれらの先行研究と一致する結果となった。一方、夫婦関係がサポートティブな場合は、葛藤が生じる場合でも協力しながら解決でき、子どもの発達にとって良い影響を及ぼす指導的な養育態度をとる傾向も高くなる。夫婦関係において、愛情関係を維持することによって、信頼関係を築き、頼りあうことができるため、子育てに対する不安や問題に対して、夫婦一緒に立ち向かうことができる(山内・長谷川, 2019)と考えられる。

養育態度と子どもの問題行動の関連 指導的な養育態度は、子どもの問題行動に負の影響を与え、向社会的な行動に正の影響を与えていた。この結果は養育態度と子どもの向社会的な行動の関連を検討した先行研究(Padilla-Walker et al., 2012)の知見と一致する。指導的な養育態度は統制・要求性は高いが、応答性も高いという特徴を持っている。親がルールの正当性を説明し、温かい環境の中で相手の気持ちを話し合うことは、子どもの向社会的な行動を促進する。権威主義的な養育態度は、子どもの問題行動に正の影響を与えていた。寛容的な養育態度は、子どもの問題行動に正の影響を与え、向社会的な行動に負の影響を与えていた。権威主義的な養育態度も寛容な養育態度も子どもの心理社会的発達にとって有害であり、問題行動のように否定的な発達の結果と結びついている。これはFlouri et al. (2017) と Hosokawa & Katsura (2018) の研究と一致している。

夫婦関係と子どもの問題行動の関連 夫婦間葛藤が権威主義的な養育態度と寛容的な養育態度に影響を与え、子どもの問題行動に影響を与えることが示され、仮説1は一部支持された。つまり、夫婦間葛藤のみで子どもの問題行動に影響を与えるのではなく、権威主義的な養育態度と寛容的な養育態度を媒介して子どもの問題

行動に影響を与える。夫婦関係の乱れは、親子関係における親の行動に悪影響を及ぼし、子どもの社会感情的結果に影響を与える可能性がある。嫌悪的な夫婦関係の指標としての夫婦間葛藤は、否定的な養育と子どもの適応問題に一貫して関連していることが先行研究 (Erel & Burman, 1995; Cox et al., 2001; Gao et al., 2019; Benson et al., 2008; Klausli & Owen, 2011) で示されており、本研究もこれを支持する結果であった。夫婦関係におけるネガティブな側面である夫婦間葛藤は、ネガティブな養育態度である権威主義的な養育態度と寛容的な養育態度を高め、子どもの問題行動を高めるという不適応に導くことが示唆された。

また、夫婦間サポートが指導的な養育態度に影響を与え、子どもの問題行動と向社会的な行動に影響を与えることが示され、仮説2は支持された。つまり、夫婦間サポートのみで子どもの問題行動と向社会的な行動に影響を与えるのではなく、指導的な養育態度を媒介して、子どもの問題行動と向社会的な行動に影響を与える。Parkes et al. (2019) は、夫婦間の supportiveness は coparenting を媒介して外在化問題行動を抑えたり、緩和したりすると指摘しており、本研究の結果も同様の知見が得られるといえる。菅原ら (2002) は夫婦関係が養育態度を媒介して子どもの抑うつ傾向に与える影響を検討した。その結果、母親に対する愛情得点が高いほど子どもに対する暖かい養育態度につながり、子どもの抑うつ傾向が抑制される傾向があることが示された。本研究では、夫婦関係におけるポジティブな側面である夫婦間サポートは、ポジティブな養育態度である指導的な養育態度を高め、子どもの問題行動を低下させ、向社会的な行動を高めることで子どもの適応につながることが示唆された。

本研究は夫婦関係と子どもの問題行動の関係に養育態度が媒介することが明らかにされた。これは、これまでの研究結果 (Erel & Burman, 1995; Fincham & Hall, 2005) とも一致するものであった。夫婦間関係のみで子どもの問題行動と向社会的な行動が起こるのではなく、養育態度が媒介することによって子どもの問題行動と向社会的な行動に影響を及ぼすことが示された。前述した内容のように、夫婦関係が子どものメンタルヘルスや適応などと関連していることはすでに多くの先行研究で実証されてきており (e.g., Emery & O'Leary, 1982)、夫婦間サポー

トも考慮に入れ、今後さらなるの検討が期待される。

本研究における限界点は2つあると考えられる。1つ目は、研究対象者の婚姻関係について尋ねなかったところである。夫婦は法律上の婚姻関係がある男性と女性であり、婚姻関係の有無が夫婦間関係に影響を与える可能性がある。したがって、今後の研究では、婚姻状態の影響を考慮した上で検討するのが望まれる。2つ目は本研究の対象者は母親のみであったことである。夫婦関係、養育態度と子どもの問題行動は母親の報告に基づいて測定された。そのため、本研究の情報源は単一の傾向がある。親は社会的に望ましい回答をし、問題行動を第三者に報告することを避ける傾向があるため、親の養育態度や子どもの問題行動に関する報告は偏りがちである (Morsbach & Prinz, 2006)。したがって、養育態度と子どもの問題行動の関連が小さくなる可能性があると考えられる。今後の研究では、幼稚園の担任保育士など複数の情報源のデータを収集する必要があると考えられる。

引用文献

- Achenbach, T. M., & Edelbrock, C. S. (1978). The classification of child psychopathology: A review and analysis of empirical efforts. *Psychological Bulletin*, **85**(6), 1275–1301. <https://doi.org/10.1037/0033-2909.85.6.1275>
- Ahmadi, K., & Saadat, H. (2015). Contribution of marital stability to parenting styles: A cross-sectional study of Iranian mothers in intact marriages. *Journal of Child and Family Studies*, **24**(7), 2155–2163. <https://doi.org/10.1007/s10826-014-0018-1>
- Ahrons, C. R. (1981). The continuing coparental relationship between divorced spouses. *American Journal of Orthopsychiatry*, **51**(3), 415–428. <https://doi.org/10.1111/j.1939-0025.1981.tb01390.x>
- Baumrind, D. (1971). Current patterns of parental authority. *Developmental Psychology*, **4**(1, Pt.2), 1–103. <https://doi.org/10.1037/h0030372>
- Baumrind, D. (2013). Authoritative parenting revisited: History and current status. In R. E. Larzelere, A. S. Morris, & A. W. Harrist (Eds.), *Authoritative parenting: Synthesizing nurturance and discipline for optimal child develop-*

- ment (pp. 11–34). American Psychological Association. <https://doi.org/10.1037/13948-002>
- Baumrind, D., Larzelere, R. E., & Owens, E. B. (2010). Effects of preschool parents' power assertive patterns and practices on adolescent development. *Parenting: Science and Practice*, **10**(3), 157–201. <https://doi.org/10.1080/15295190903290790>
- Benson, M. J., Buehler, C., & Gerard, J. M. (2008). Interparental hostility and early adolescent problem behavior: Spillover via maternal acceptance, harshness, inconsistency, and intrusiveness. *The Journal of Early Adolescence*, **28**(3), 428–454. <https://doi.org/10.1177/0272431608316602>
- Berzonsky, M. D. (2004). Identity style, parental authority, and identity commitment. *Journal of Youth and Adolescence*, **33**(3), 213–220. <https://doi.org/10.1023/B:JOYO.0000025320.89778.29>
- C. Cybele Raver. (2002). Emotions Matter: Making the Case for the Role of Young Children's Emotional Development for Early School Readiness. *Social Policy Report*. **16**(3), 1–20. <https://doi.org/10.1002/j.2379-3988.2002.tb00041.x>
- Chang, L., Lansford, J. E., Schwartz, D., & Farver, J. M. (2004). Marital quality, maternal depressed affect, harsh parenting, and child externalising in Hong Kong Chinese families. *International Journal of Behavioral Development*, **28**(4), 311–318. <https://doi.org/10.1080/01650250344000523>
- Chang, L., Schwartz, D., Dodge, K. A., & McBride-Chang, C. (2003). Harsh parenting in relation to child emotion regulation and aggression. *Journal of family psychology: JFP: journal of the Division of Family Psychology of the American Psychological Association (Division 43)*, **17**(4), 598–606. <https://doi.org/10.1037/0893-3200.17.4.598>
- Chen, X., Cen, G., Li, D., and He, Y. (2005). Social functioning and adjustment in Chinese children: the imprint of historical time. *Child Development*, **76**, 182–195. <https://doi.org/10.1111/j.1467-8624.2005.00838.x>
- Chen, X., Dong, Q., & Zhou, H. (1997). Authoritative and Authoritarian parenting practices and social and school performance in Chinese children. *International Journal of Behavioral Development*, **21**(4), 855–873. <https://doi.org/10.1080/016502597384703>
- Cox, M.J., Paley, B., Harter, H. (2001). Interparental conflict and parent–child relationships. In: Grych, JH, Fincham, FD, (Eds.), *Interparental conflict and child development: Theory, research, and application*. (pp.249–272). Cambridge University Press.
- Cox, M. J., & Paley, B. (2003). Understanding families as systems. *Current Directions in Psychological Science*, **12**(5), 193–196. <https://doi.org/10.1111/1467-8721.01259>
- Cummings, E. M., Davies, P. T., & Campbell, S. B. (2000). *Developmental psychopathology and family process: Theory, research, and clinical implications*. The Guilford Press. (カミングス, E. M., デイヴィーズ, P. T., & キャンベル, S. B. 松浦素子 (訳) 子どもの発達と夫婦のサブシステム 菅原ますみ (監訳) (2006). 発達精神病理学——子どもの精神病理の発達と家族関係——ミネルヴァ書房)
- Davies, P. T., & Cummings, E. M. (1998). Exploring children's emotional security as a mediator of the link between marital relations and child adjustment. *Child Development*, **69**(1), 124–139. <https://doi.org/10.2307/1132075>
- Du, Y., Kou, J., & Coghill, D. (2008). The validity, reliability and normative scores of the parent, teacher and self report versions of the Strengths and Difficulties Questionnaire in China. *Child and adolescent psychiatry and mental health*, **2**(1), 8. <https://doi.org/10.1186/1753-2000-2-8>
- Emery, R. E., & O'Leary, K. D. (1982). Children's perceptions of marital discord and behavior problems of boys and girls. *Journal of abnormal child psychology*, **10**(1), 11–24. <https://doi.org/10.1007/BF00915948>
- Fincham, F. D., & Hall, J. H. (2005). Parenting and the Marital Relationship. In T. Luster & L. Okagaki (Eds.), *Parenting: An ecological perspective* (pp. 205–233). Lawrence Erlbaum Associates Publishers.
- Flouri, E., & Midouhas, E. (2017). Environmental

- adversity and children's early trajectories of problem behavior: The role of harsh parental discipline. *Journal of family psychology: JFP: journal of the Division of Family Psychology of the American Psychological Association (Division 43)*, **31**(2), 234-243. <https://doi.org/10.1037/fam0000258>
- Gao, M. M., Du, H., Davies, P. T., & Cummings, E. M. (2019). Marital Conflict Behaviors and Parenting: Dyadic Links Over Time. *Family relations*, **68**(1), 135-149. <https://doi.org/10.1111/fare.12322>
- Grych, J. H., & Fincham, F. D. (1990). Marital conflict and children's adjustment: A cognitive-contextual framework. *Psychological Bulletin*, **108**(2), 267-290. <https://doi.org/10.1037/0033-2909.108.2.267>
- 廣瀬愛希子・濱口佳和 (2022). 親の夫婦間葛藤が情緒的安定性を介して子どもの適応に与える影響——高校生を対象として——筑波大学心理学研究, **60**, 47-53.
- Hosokawa, R., & Katsura, T. (2018). Role of Parenting Style in Children's Behavioral Problems through the Transition from Preschool to Elementary School According to Gender in Japan. *International journal of environmental research and public health*, **16**(1), 21. <https://doi.org/10.3390/ijerph16010021>
- Hu, Q., & Feng, Q. (2022). Parenting style and prosocial behaviour among Chinese preschool children: A moderation model. *Early Child Development and Care*, **192**(9), 1444-1461. <https://doi.org/10.1080/03004430.2021.1888942>
- Huang, C-Y & Cheah, C. & Lamb, M. & Zhou, N. (2017). Associations Between Parenting Styles and Perceived Child Effortful Control Within Chinese Families in the United States, the United Kingdom, and Taiwan. *Journal of Cross-Cultural Psychology*. **48**. 002202211770610. [10.1177/0022022117706108](https://doi.org/10.1177/0022022117706108).
- Klausli JF, Owen MT. 2011; Exploring actor and partner effects in associations between marriage and parenting for mothers and fathers. *Parenting*. **11**, 264-279. <https://doi.org/10.1080/15295192.2011.613723>
- Kwok, S. Y. C. L., Cheng, L., Chow, B. W. Y., & Ling, C. C. Y. (2015). The spillover effect of parenting on marital satisfaction among Chinese mothers. *Journal of Child and Family Studies*, **24**(3), 772-783. <https://doi.org/10.1007/s10826-013-9888-x>
- Liu, J., Xiao, B., Hipson, W. E., Coplan, R. J., Yang, P., & Cheah, C. S. L. (2018). Self-regulation, learning problems, and maternal authoritarian parenting in Chinese children: A developmental cascades model. *Journal of Child and Family Studies*, **27**(12), 4060-4070. <https://doi.org/10.1007/s10826-018-1218-x>
- Llorca, A., Cristina Richaud, M., & Malonda, E. (2017). Parenting, Peer Relationships, Academic Self-efficacy, and Academic Achievement: Direct and Mediating Effects. *Frontiers in psychology*, **8**, 2120. <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2017.02120>
- Magai, D. N., Malik, J. A., & Koot, H. M. (2018). Emotional and Behavioral Problems in Children and Adolescents in Central Kenya. *Child psychiatry and human development*, **49**(4), 659-671. <https://doi.org/10.1007/s10578-018-0783-y>
- Morsbach, S. K., & Prinz, R. J. (2006). Understanding and improving the validity of self-report of parenting. *Clinical child and family psychology review*, **9**(1), 1-21. <https://doi.org/10.1007/s10567-006-0001-5>
- Padilla-Walker, L. M., Carlo, G., Christensen, K. J., & Yorgason, J. B. (2012). Bidirectional relations between authoritative parenting and adolescents' prosocial behaviors. *Journal of Research on Adolescence*, **22**(3), 400-408. <https://doi.org/10.1111/j.1532-7795.2012.00807.x>
- Parkes, A., Green, M. & Mitchell, K. (2019). Coparenting and parenting pathways from the couple relationship to children's behavior problems. *Journal of family psychology*, **33**(2), 215-225
- Ramsey, A., Watson, P. J., Biderman, M. D., & Reeves, A. L. (1996). Self-reported narcissism and perceived parental permissiveness and authoritarianism. *The Journal of genetic psychology*, **157**(2), 227-238. <https://doi.org/10.1080/00221325.1996.9914860>
- Shek, D. T. L. (2000). Parental marital quality and well-being, parent-child relational quality, and Chinese-adolescent adjustment. *American*

- Journal of Family Therapy*, **28**(2), 147-162.
<https://doi.org/10.1080/019261800261725>
- 清水裕士 (2016). フリーの統計分析ソフト HAD: 機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案 メディア・情報・コミュニケーション研究, **1**, 59-73.
- Stroud, C. B., Durbin, C. E., Wilson, S., & Mendelsohn, K. A. (2011). Spillover to triadic and dyadic systems in families with young children. *Journal of family psychology: JFP: journal of the Division of Family Psychology of the American Psychological Association (Division 43)*, **25**(6), 919-930. <https://doi.org/10.1037/a0025443>
- 菅原ますみ・八木下暁子・詫摩紀子・小泉智恵・瀬地山葉矢・菅原健介・北村俊則 (2002). 夫婦関係と児童期の子どもの抑うつ傾向との関連——家族機能および両親の養育態度を媒介として—— 教育心理学研究, **50**, 120-140.
- Tavassolie, T., Dudding, S., Madigan, A. L., Thorvardarson, E., & Winsler, A. (2016). Differences in perceived parenting style between mothers and fathers: Implications for child outcomes and marital conflict. *Journal of Child and Family Studies*, **25**(6), 2055-2068. <https://doi.org/10.1007/s10826-016-0376-y>
- 内田伸子 (2008). よくわかる乳幼児心理学 ミネルヴァ書房
- Wan, G. W., & Leung, P. W. (2010). Factors accounting for youth suicide attempt in Hong Kong: A model building. *Journal of Adolescence*, **33**(5), 575-582. <https://doi.org/10.1016/j.adolescence.2009.12.007>
- Wu, P., Robinson, C. C., Yang, C., Hart, C. H., Olsen, S. F., Porter, C. L., Jin, S., Wo, J., & Wu, X. (2002). Similarities and differences in mothers' parenting of preschoolers in China and the United States. *International Journal of Behavioral Development*, **26**(6), 481-491. <https://doi.org/10.1080/01650250143000436>
- Xiao, B., Bullock, A., Liu, J., & Coplan, R. J. (2022). The longitudinal links between marital conflict and Chinese children's internalizing problems in mainland China: Mediating role of maternal parenting styles. *Family process*, **61**(4), 1749-1766. <https://doi.org/10.1111/famp.12735>
- 山内美香・長谷川晃 (2019). 大学生が認知した両親の夫婦関係が共感性と向社会的行動に与える影響—親のこのような態度を媒介変数として—, 東海学院大学紀要, **13**, 89-97.
- Yu, J. J., & Gamble, W. C. (2008). Pathways of influence: Marital relationships and their association with parenting styles and sibling relationship quality. *Journal of Child and Family Studies*, **17**(6), 757-778. <https://doi.org/10.1007/s10826-008-9188-z>
- Yu, Y., Wang, T., Liang, J., Yang, C., Wang, H., Zhao, X., Zhang, J., & Liu, W. (2020). Behavioural Problems Amongst Pre-School Children in Chongqing, China: Current Situation and Influencing Factors. *Risk management and healthcare policy*, **13**, 1149-1160. <https://doi.org/10.2147/RMHP.S263155>
- Zhang, R., Guo, Y., Bai, B., Wang, Y., Gao, L., & Cheng, L. (2022). The Association between Parental Marital Satisfaction and Adolescent Prosocial Behavior in China: A Moderated Serial Mediation Model. *International journal of environmental research and public health*, **19**(9), 5630. <https://doi.org/10.3390/ijerph19095630>